教育事業等報告書

令和２年度

独立行政法人　国立青少年教育振興機構

国立赤城青少年交流の家

目　　次

青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

・地域探究プログラム　オリエンテーション合宿ｉｎ赤城・・・・・・・・・・・・・・・２

グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

・イングリッシュアドベンチャー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

・教員免許状更新講習（選択領域１８時間）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
・ボランティア養成セミナー＆自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー養成事業）・・８

子供の貧困対策

・あかぎサマーキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
・あかぎオータムキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
・あかぎオータムキャンプＰａｒｔ２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発

・親子で登山 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
・親子キャンプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
・【民間企業等連携事業】 育パパ＆育ママ応援ファミリーキャンプ ・・・・・・・・２２

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

・「体験の風をおこそう」運動推進事業（出展ブースを含む） ・・・・・・・・・・・２４
・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会出展ブース ・・・・・・・２６

青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

〈全国高校生体験活動顕彰制度事業〉

「地域探究プログラム　オリエンテーション合宿　ｉｎ　赤城」

１．趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、探究のプロセスを体験し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。

２．事業の概要

（１）期日

令和２年８月１日（土）～２日（日）

（２）参加者　①参加対象　高校１、２年生

②参加人数　前橋市立前橋高校生徒１４名（男子４名、女子１０名）

３．企画運営のポイント

①オリエンテーション合宿の課題を「赤城山観光プランをつくる」に設定することで、前橋市立前橋高校の「総合的な探究の時間」の教育課程と関連させ、本合宿の成果を学校で生かすことができるようにする。

②探究のプロセスごとに、指導計画とワークシートを作成することで、活動の目的や達成目標を明確にする。

③赤城山大沼周辺でのフィールドワークにおいて、前橋市地域おこし協力隊員を中心にたくさんの協力をもとに、充実した体験活動ができるようにする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
８月１日 （土）	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 講師：関　洋明氏 （前橋市地域おこし協力隊） 鈴木　雄祐氏 （前橋市地域おこし協力隊）	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習② 「課題解決の基礎」
８月２日 （日）	フィールドワーク② 「地域課題の探究」 講師：関　洋明氏 （前橋市地域おこし協力隊） 鈴木　雄祐氏 （前橋市地域おこし協力隊） 講義・演習③ 「地域課題の探求」	講義・演習③ 「地域課題の探求」 発表	

５．主な活動内容

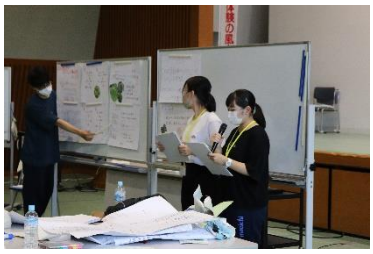
フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

フィールドワーク②「地域課題の探究」

講義・演習③「地域課題の探究」



発　表

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１４名（１００％）　やや満足０名　　やや不満０名　不満０名

（２）参加者の声

・覚満淵の自然や電動アシスト付スポーツ自転車で大沼の風景を感じることができ、すごく楽しかったです。また、商店街で話を聞き、リアルな問題について知ることができ、知識を深めることができました。
・自分が初めて知ったことや問題について整理し、次につなげる考えを作ることができました。
・班の仲間と楽しく話し合って、これからの赤城観光の理想について考え、自分達の目線で問題点に考えることができました。
・実際にやってみたいことの構造や実現性を考え、楽しく活動できました。
・今までの意見をまとめ、伝わるように考えました。
・ほかの班の意見もすばらしくて、２日間のまとめとして、とても充実していました。

（３）成果

①参加者から「赤城について知ることができ、普段できない体験ができた。」や「とても良い経験でした。楽しかったです。」「今まであまりしたことのない体験ができた。」などの意見があることから、覚満淵での環境学習や自転車での大沼一周などを行ったフィールドワークが、赤城山観光プランを考えるための効果的な活動にすることができた。

②参加者から「話し合いで考えを広げることができたのが良かった。」や「今回学んだ発表の仕方や工夫の仕方などを次に生かしてがんばりたい。」などの意見があることから、各探究のプロセスごとに活動の目的を明確にし、ワークシートを作成したことは、情報の整理や分析、アイデア出しや発表方法を考えるための手段として有効であった。

（４）課題

①参加者から「少しスライドを作成する時間を長くして欲しかった。」などの意見があることから、アイデアを絞りながら赤城山観光プランとしてまとめていく活動とスライドを作成する活動のバランスを調整し、発表練習とスライドを修正する活動時間を確保したい。

担当　企画指導専門職　横山　直樹

グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進事業

「イングリッシュアドベンチャー」

１．趣旨

英語を使った体験活動を通して、交流することの楽しさを感じたり、自然や英語への興味・関心を高める。

２．事業の概要

（１）期日

令和２年９月５日（土）～６日（日）（１泊２日）

（２）参加者

①参加対象　小学校５年生

②参加人数　１５名　（応募３７名　キャンセル１名）

群馬県　前橋市２４名、桐生市１名、伊勢崎市３名、太田市６名、玉村町２名、沼田市１名

埼玉県　八潮市１名

東京都　世田谷区１名

３．企画運営のポイント

①体験活動を中心に据え、積極的に英語を用いてコミュニケーションをとる場面を意図的に設定し、楽しみながら英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをしてみたいと思わせるプログラム構成にする。

②野外炊事や自然体験活動に係るプログラムについては、事前に当所職員が外部講師に対して進行方法や安全管理等の事前指導を行うと共に、外部講師は各プログラムの中でパネル等を活用するなど、小学生が英語を使いやすい雰囲気づくりを行う。

４．日程

	午　前	午　後	夜
９月 ５日 （土）	開講式 仲間と英語ではじめまして！ 講師：Jaime Ota（ＡＬＴ） David Carolan（ＡＬＴ） ・アイスブレイク	英語を使って、食材を探そう ・スカベンジャーハント 英語を使って、うどんを作ろう	英語を使ってキャンプファイヤー ・英語の歌遊び （Hokey Pokey、ロンドン橋落ちたなど） →プログラム変更により中止 ・スモアづくり
９月 ６日 （日）	イングリッシュレストラン① ・開店準備 ・リハーサル	イングリッシュレストラン① ・英語を使って買い物 振り返り 閉講式	

５．主な活動内容

「仲間と英語ではじめまして！」

「英語を使って、食材を探そう」

「英語を使って、うどんを作ろう」

「英語を使って、うどんを作ろう」

「イングリッシュレストラン①」

「イングリッシュレストラン②」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１４名（９３％）　やや満足１名（７％）　　やや不満０名　　不満０名

（２）参加者の声

・うどん作るのが大変だったけど、楽しかったので、また行きたいと思いました。
・楽しかったけど、できればみんなでカレーを作りたかったです。
・新しい経験をしたり、友達と仲良く話したりできて、とても楽しく過ごせました。
・うどん作りやスカベンジャーが面白かったです。（森の中で作れたので面白かったです。）
・探検がリアルでおもしろかったです。
・イングリッシュレストランのポスター作りが楽しかったです。
・たくさん単語がおぼえられました。友達がたくさんできました。
・自分が少し成長したと思いました。
・うどんをつくるとき一回失敗してしまったけどまた作り直して成功したのでうれしかったです。

（３）成果

①参加者から「イングリッシュレストランのポスター作りが楽しかったです。」「たくさん単語がおぼえられた。」などの意見があることから、英語を使った体験活動を通して、交流することの楽しさを感じることや、英語への興味関心が高まる活動が実施できたと考えられた。

（４）課題

①参加者から「楽しかったけど、できればみんなでカレーを作りたかった。」とあったが、うどん作りがうまくいかず、プログラムを変更したので、野外炊事のメニューについては、新しいメニューではなく、通常研修支援として提供しているものから選ぶことが望ましい。

担当　企画指導専門職付　反町　峻

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「教員免許状更新講習（選択領域１８時間）」

～学級経営に活かす豊かな体験活動～

１．趣旨

様々な立場の講師からの講義を通して、学習指導要領改訂を踏まえた、最新の教育動向を学びながら、体験活動の重要性を理解するとともに、本所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習を通して、体験活動の必要性や有用性を実感するとともに、教員としての資質向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和２年７月２３日（木）～７月２５日（土）

（２）参加者

①参加対象　小・中学校、高等学校の教員

②参加人数　２７名（男性１６名　女性２１名）

③参加者の内訳

〈校種別〉小学校１２名　中学校１１名　高等学校２名　特別支援学校２名

〈都道府県別〉群馬県１５名　栃木県５名　埼玉県３名　茨城県１名　千葉県１名
神奈川県１名　新潟県１名

３．企画運営のポイント

①「避難所運営ゲーム」や「防災食体験」など防災教育に焦点を当てたプログラムを実施する。

②「クラフト」や「ビジュアルオリエンテーリング」、「グリーンアドベンチャー」など参加した教員が学校・学級にもちかえってすぐに実践でき、その効果を体験できるプログラムを実施する。

４．日程

	午　前	午　後	夜
７月 ２３日 （木）	講義「学校教育の現状と課題」 講師　群馬県教育委員会 義務教育課長　栗本郁夫	講義「熱中症予防対策講義」 講師　大塚製薬工場　別島徹憲 講義・実習「ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ」 講師　国立赤城青少年交流の家 所長　松村純子	
７月 ２４日 （金）	講義・実習「ｸﾞﾘｰﾝｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰ」 講師：主任企画指導専門職 塩原基寧 講義・演習「防災教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ体験①」 講師　日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	講義・演習「防災教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ体験②」 講師　日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	講義・実習「野外炊事」 講師　国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧
７月 ２５日 （土）	講義「学校教育における体験活動の意義」 講師　亜細亜大学 国際関係学部 国際関係学科 特任教授 大久保俊輝 実習「クラフト」 講師　国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職付 反町峻	履修認定試験	

５．主な活動内容

「

「学校教育の現状と課題」

「熱中症予防対策講義」

「ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ」

「防災教育プログラム体験」

「野外炊事」

「学校教育における体験活動の意義」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足２６人（９６％）　やや満足１人（４％）　　やや不満０人　　不満０人

（２）参加者の声

・「学校教育の現状と課題」では、コロナ対応について学べました。「深い学び」について参考になりました。

・「熱中症予防対策講義」では、熱中症についてよく分かりました。緊急時に役立てたいと思いました。

・「ビジュアルオリエンテーリング」を実際に体験することにより、観察力やコミュニケーション能力の向上につながると実感しました。

・「グリーンアドベンチャー」では、グループの人と協力してコミュニケーションをとることができました。けが人やの対応や事前準備の大切さを学べました。

・「防災教育プログラム体験」では、体験して楽しさが実感できました。ここで得た知識を子供たちに伝えて、生かしたいです。

・「野外炊事」では、コロナ対応で、個別食等多くの経験ができて良かったです。安全面に十分注意して実際に行えると良いと思いました。

・「学校教育における体験活動の意義」では、体験活動の意義を学び、達成感や、楽しかった、またやりたいそういったことが今後に生かせるヒントになりました。

・「クラフト」は自然物を生かして様々な体験ができることが分かりました。

（３）成果

①コロナ禍での対応や防災に関する体験活動を意識して、プログラムを組むことで、参加者自身が、自校での、コロナ対応や防災計画等に積極的に関わろうとする意欲をもたせることができた。

②オリエンテーリングやクラフトなど、学校にもちかえってすぐにでも取り組めるプログラムを紹介することで、講習での学びを実践しようとする意欲をもたせることができた。

（４）課題

①防災プログラムは参加者にも好評だった。学校が、実際に施設利用する際のプログラムも講習に取り入れることで、コロナ禍でも安全に行うことができることを周知していく必要がある。

担当　主任企画指導専門職　　塩原　基寧

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「ボランティア養成セミナー＆NEAL リーダー養成事業」

１．趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に取り組もうとする意欲を高める。また、自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー）講習を受講することで、楽しく安全に活動を指導するための技術向上を図れます。

２．事業の概要

（１）期日

令和 2 年 9 月 19 日（土）～9 月 21 日（月・祝）【2 泊 3 日】

（２）参加者

①参加対象　高校生以上
②参加人数　31 名（応募 34 名　キャンセル 3 名）
③参加者の内訳　高校生 5 名、大学生 20 名、社会人 6 名（職員 3 名）
④修了者数　　30 名（1 名部分受講）うちボランティア登録者数　27 名

３．企画運営のポイント

①2 泊 3 日一括で法人ボランティア登録とＮＥＡＬリーダー登録が可能となるような日程とする。また、ボランティア活動及び自然体験活動指導者として必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画する。
②法人ボランティアとして活動してきた先輩学生ボランティアが、自らの体験談を発表することで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせ、前向きに取り組んでいこうとする態度を養わせる。
③新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とする。

４．日程

	午　前	午　後
9 月 19 日 （土）	開講式 「ＮＥＡＬガイダンス」　主任講師 「青少年教育施設における現状と課題」交流の家所長	「ボランティア活動の意義」「青少年教育」 文教大学准教授　青山鉄兵　氏 「自然体験活動の技術」交流の家職員 「青少年教育施設のボランティア」交流の家職員、法人ボランティア
9 月 20 日 （日）	「自然体験活動の安全管理」 日本赤十字社群馬県支部　指導員	「自然体験活動の指導」「対象者理解」 國學院大学准教授　青木康太朗　氏 「自然体験活動の技術」 キープ協会主席研究員　増田直広　氏
9 月 21 日 （月・祝）	「自然体験活動の特質」 キープ協会主席研究員　増田直広　氏	「認定試験」 「法人ボランティア制度について」 交流の家職員 「ＮＥＡＬ制度について」　主任講師 閉講式

５．主な活動内容

「ボランティア活動の意義」

「自然体験活動の技術」

「安全管理」

「対象者理解」

「自然体験活動の技術」

「自然体験活動の特質」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足 25 名（92.5%）、やや満足 2 名（7.5%）

（２）参加者の声

・「自然体験活動の特質」や「自然体験活動の技術」では、実際に体験を通して学ぶことがで、さらに理解度が深まることが体感できました。また、夜の森は少し怖かったが、五感が研ぎ澄まされ、自然の中でリラックスできました。

・「自然体験活動の指導」や「対象者理解」では、指導者として求められること（資質・スフトスキル・ハードスキル）を学んだうえで、今の自分に足りないことを強化したいと思いました。また、対子どもの理解だけではなく、自然や現代の社会状況についても理解を深める必要があることを知り、視野を広げなければならないと感じました。

・「ボランティア活動の意義」や「青少年教育」では、体験を意図的にさせる難しさを実感しました。いかにやらされている感をなくしながら、学ぶ場をつくっていくかは、学校の授業づくりと共通していることを実感しました。

（３）成果

①高校生が 5 名参加、大学生は 6 大学から集まるなど、多様な所属からなる参加者が集まった。また、事業直後に「あかぎフェスタ」や「親子事業」など比較的、取組みやすい事業が続くことから、ボランティア活動の第一歩を踏み出す参加者を増やすことができた。

②新型コロナウイルス感染症のために、時期を変更し、ボランティア養成セミナーとＮＥＡＬの同時開催となったが、プログラムの構成的に基礎的・概論的な内容から具体的・専門的な内容へと深まっていったため、参加者にとって理解しやすい流れにすることができた。

（４）課題

①指導者養成業については、事前にしおり資料を PDF でメール送信するかグーグルドライブを共有・ダウンロードするなど、ICT 化できるものを増やし、事務作業の効率化を図っていきたい。

②群馬県内の学生の参加が少ない状況であった。コロナ禍ではあるが、来年度に向けて、県内大学へ早期から広報計画を立て、再構築していきたい。

担当　企画指導専門職　　横山直樹
　　主幹兼事業推進係長　福岡公平

子供の貧困対策事業

「あかぎサマーキャンプ」

～母子家庭等ひとり親の親子対象事業～

１．趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において、経済的に困窮した家庭の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。親子のふれあいや交流を深め、自然体験や食育、ものづくり体験などを行うことにより、心身の健康増進や子供の健全育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和２年７月１８日（土）～７月１９日（日）【１泊２日】

（２）参加者

①参加対象　ひとり親家庭の親と子　２１名
②家族数　母子家庭　７家族　父子家庭　１家族
③男女別　男性　大人１名　子供６名　女性　大人７名　子供７名

３．企画運営のポイント

①「親子レクリエーション」や「乗馬体験」「赤城山ポイントハイク」など日常では体験できないような活動を中心にプログラムを構成する。
②群馬県生涯学習センターの指導主事を講師に迎えた保護者向けの情報交換会や保護者への感謝の手紙作りの活動を通して、保護者同士が交流できる機会や子供たちが日常を振り返る機会を設定する。

４．日程

	午　前	午　後	夜
７月 １８日 （土）	受付 開会式 オリエンテーション 親子レクリエーション 「遊びリンピック」	昼食 乗馬体験 マイスプーン（フォーク） づくり	学習タイム（子供） 情報交換会（保護者）
７月 １９日 （日）	赤城山ポイントハイク	昼食（お弁当） 閉会式	

５．主な活動内容

「開会式」　「アイスブレイク」　「親子でレクリエーション」

「乗馬体験」　「マイスプーン（フォーク）づくり」　「学習タイム（感謝の手紙作り）」

「保護者の情報交換会」　「赤城山ポイントハイク」　「閉会式」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：１８人（８６％）　やや満足：３人（１４％）
やや不満：０人（０％）　不満：０人（０％）

（２）参加者の声

・親子レクリエーションは、親や参加したみんなと仲良く協力できた気がします。
・マイスプーン作りは、自分のオリジナルのスプーンができたのが良かったです。
・乗馬体験は、初めて馬に触れて最初は怖かったけど、だんだん楽しくなり、もっと乗りたいと思いました。
・情報交換会では、同じような悩みをもつご家庭があって、少し安心しました。

（３）成果

①参加した子供から「親子レクリエーションは、みんなと仲良く協力できた。」「普段体験できないことを体験できた。」「マイスプーンづくりは、作り方を教え合ってよかった。」「乗馬が楽しかった。」などの感想があることから、自ら意欲的に活動に取り組むことができた。

②参加した保護者から「子供との時間がいつもより増えて良かった。」「子供がまだまだ私と一緒に体験等を楽しみたいと感じていることが分かってうれしかった。」「情報交換会では、同じような悩みをもつ家庭があって、安心した。」などの感想があることから、親子のふれあいや参加者同士の交流を深めることができた。

（４）課題

①赤城山ポイントハイクでは、さらに十分な安全対策のもとで実施するために、交通量の多い箇所への職員の配置、情報共有のために無線の使用、参加者へ配布するマップに危険箇所や道迷いを防止するための案内などを掲載していきたい。

担当　企画指導専門職　　横山　直樹

子供の貧困対策事業

「あかぎオータムキャンプ」

～母子家庭等ひとり親の親子対象事業～

１．趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において、経済的に困窮した家庭の子どもを対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子どもたちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。親子のふれあいや交流を深め、自然体験や食育、ものづくり体験などを行うことにより、心身の健康増進や子どもの健全育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和２年９月１２日（土）～９月１３日（日）【１泊２日】

（２）参加者

①参加対象　ひとり親家庭の親と子　１０名
②家族数　母子家庭　５家族
③男女別　男性　子供１名　女性　大人５名　子供４名

３．企画運営のポイント

①「野外炊事（カレーライス）」や「焼き板」、「あかぎやまクエスト（長七郎山～覚満淵）」など日常では体験できないような活動を中心にプログラムを構成する。
②群馬県生涯学習センターの社会教育主事を講師に迎えた保護者向けの情報交換会や子どもたちによる保護者への感謝の手紙作りの活動を通して、保護者同士が交流できる機会や子どもたちが日常を振り返る機会を設定する。

４．日程

	午　前	午　後	夜
９月 １２日 （土）	受付 開会式 オリエンテーション 野外炊事	野外炊事 焼き板づくり	メッセージカード作り 昔遊び（子） わくわく子育てトーキング 情報交換会（親）
９月 １３日 （日）	赤城山クエスト （長七郎山登山～ 覚満淵散策）	昼食（お弁当） 閉会式	

５．主な活動内容

「開会式」　「野外炊事」　「野外炊事」

「焼き板」　「焼き板作品」　「昔遊び」

「親の情報交換会」　「あかぎやまクエスト（長七郎山）」　「閉会式」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：１０人（１００％）　やや満足：０人（０％）
やや不満：０人（０％）　不満：０人（０％）

（２）参加者の声

・子どもとの時間がとても大切なことに気づかされた。初対面の方とも知り合うことができました。職員の方々の対応もとても良かったです。
・親子で協力して野外炊事や登山などをすることで家族の一体感が生まれました。
・みんなでワイワイいいながら山に登ったり、協力して火をおこしてカレーを作ったり、まだかまだかと一緒に板を焼いたりしたことが楽しかったです。

（３）成果

①「野外炊事（カレーライス）」「焼き板」「あかぎやまクエスト（長七郎山登山）」など、普段家庭ではできない体験を親子で協力しながら体験することができたという声が多く、親子の絆を深めることができた。
②職員や社会教育実習生、他の参加者と多く関わることで、人とのつながりの大切さに気付くことができた。

（４）課題

①コロナ渦の中の事業ということでキャンセルする参加者もいた。今回はバスで役場から国立赤城青少年交流の家まで送迎したが、参加者には自家用車で赤城まで来てもらい、バスは赤城から小沼方面という方法も考えられる。

担当　企画指導専門職　　渡邉　秀幸

子供の貧困対策事業

「あかぎオータムキャンプ part２」

～児童養護施設対象事業～

１．趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において、児童養護施設の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。また、子供同士のふれあいや指導員との交流を深め、自然体験や食育、ものづくり体験などを行うことにより、心身の健康増進や子供の健全育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和２年１１月２１日（土）【日帰り】

（２）参加者

①児童養護施設「東光虹の家」　５２名
②引率者１５名
③子供　２７名（幼児１０名、小学生１９名、中学生６名、高校生２名）

３．企画運営のポイント

①「ドラム缶をつかったピザづくり」や「かまどを使ったポトフづくり」「焼き板づくり」など日常では体験できないような活動を中心にプログラムを構成する。
②子供たちが主体的に活動できるように、引率者と連携しながら班を編成する。

４．日程

	午　前	午　後
１１月 ２１日 （土）	受付 始まりの会 野外炊事 「ピザ＆ポトフ」づくり	A（幼児） くるくるタネを作ろう！ B（小学生以上） 杉板を焼いて、オリジナルプレートを作ろう！ ふりかえり 終わりの会

５．主な活動内容

「始まりの会」　「ピザ生地づくり」　「ピザとポトフの具材の調理」

「火おこし」　「ピザづくり」　「くるくるタネづくり」

「焼き板づくり」　「くるくるタネとばし」　「終わりの会」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：３５人（８５％）　やや満足：６人（１５％）
やや不満：０人（０％）　不満：０人（０％）

（２）参加者の声

・子供達が、ピザ作りや焼き板作りを楽しそうに行うことができているようでした。なかなか、体験できない内容で良い経験になったと思います。（引率者）
・子供達がみんな楽しそうに活動していたり、自主的に動く力が身に付いたりしたので、とてもいい経験になったと思います。（引率者）
・今日は、ピザとポトフをつくったことが楽しかったです。（子供）

（３）成果

①参加した子供から「料理をして、会話が弾んだところがあった。」「仲間と協力することによって、信頼度が高まったと思う。」「などの感想があることから、子供達同士のきずなを深めるができた。
②参加した引率者から「子供達が積極的に動くことができていた。」「子供達が自分で作ったことで、少し焦げていても「すごくおいしい。」と食べていたことが印象的だった。」などの感想があることから、子供達が主体的に活動したり、食べ物を大切にしたりすることができた。

（４）課題

③令和３年度は、東光虹の家と引き続き連携し実施していくが、令和４度から連携する次の児童養護施設と連絡をとり、準備していきたい。

担当　企画指導専門職　　横山　直樹

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業

「　親子で登山　」

～コロナに負けるな！親子の絆で乗り越えよう！！～

１．趣旨

赤城山登山を体験することにより、親子の絆を深めるとともに、健全な青少年の育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日

＜Ａコース＞赤城山（地蔵岳・長七郎山・覚満淵）
①令和２年８月１日（土）日帰り　④令和２年８月９日（日）日帰り
＜Ｂコース＞赤城山（黒檜山・駒ヶ岳）
②令和２年８月２日（日）日帰り　③令和２年８月８日（土）日帰り

（２）参加者

①参加対象【親子】
＜Ａコース＞小学校４年生以下の子供とその保護者
・１日（１６名、７家族）９日（２４名、９家族）計（４０名１６家族）
＜Ｂコース＞小学校５年生～中学校３年生までの子供とその保護者
・２日（１０名、４家族）８日（　８名、３家族）計（１８名　７家族）

②参加人数５８名（２３家族）　（応募総数７７名）
群馬県前橋市７家族、高崎市３家族、伊勢崎市２家族、みどり市２家族、
藤岡市１家族、太田市１家族、邑楽町１家族、吉岡町１家族、
東京都２家族、埼玉県１家族、栃木県１家族、福島県１家族

３．企画運営のポイント

①新型コロナウイルス（登山中におけるマスクとソーシャルディスタンス）に対応した登山実践とする。
②新しい生活様式の方法として、現地集合・現地解散とする。
③「登山」では、親子で一緒に自然を感じながら登る。
④日帰りでの事業だけではなく、宿泊（前泊・後泊）もできるよう選択肢を増やす。

４．日程

	午　前	午　後
８月１日（土） ９日（日）	開会式（大洞駐車場） ＜Ａコース＞ ・赤城山（地蔵岳・長七郎山・覚満淵）～約７km 閉会式（大洞駐車場）	
８月２日（日） ８日（土）	開会式（おのこ駐車場） ＜Ｂコース＞ ・赤城山（黒檜山・駒ヶ岳）～約８km 閉会式（おのこ駐車場）	

５．主な活動内容

「地蔵岳登山」

「地蔵岳山頂」

「小沼湖畔・長七郎山」

「覚満淵散策」

「黒檜山・駒ヶ岳登山」

「黒檜山山頂」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

Ａ【１日】満足７家族(100%) やや満足０家族　　やや不満０家族　不満０家族
Ｂ【２日】満足３家族(75%)　やや満足１家族(25%)　やや不満０家族　不満０家族
Ｂ【８日】満足３家族(100%) やや満足０家族　　やや不満０家族　不満０家族
Ａ【９日】満足９家族(100%) やや満足０家族　　やや不満０家族　不満０家族

（２）参加者の声

・親子でというところに魅力を感じました。また、途中で登らないという選択肢があったおかげで楽しく登ることができました。
・同じ年代の子どももいることで、子どもにも親にも刺激となり、やり切ったことで達成感を味わうことができました。
・初めての登山で不安でしたが、職員の方にとても親切にしていただきました。新型コロナウイルスへの対応、お弁当の用意や OS-1 など、登山以外にも細かな配慮があり安心して参加することができました。

（３）成果

①「登山」では、親子で登る様子や発達段階に応じたコースを設定したことから、プログラムの内容は良かった。
②「新型コロナウイルス対応」では、新しい生活様式（現地集合解散・受付時・しおり・登山実践等）に応じた内容を実施できて良かった。
③事業だけではなく、交流の家にも宿泊（前泊・後泊）ができるようにしたことは、参加への選択肢が増えて良かった。

（４）課題

①体験活動へのニーズがある層に広報が行き届くように手段や方策を検討していく。
②日帰り事業のニーズの高さが伺えたことから、登山だけではなく、年間を通じて、「親子で○○」として開催できるか検討していく。

担当　企画指導専門職　田村　文明

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業

「　親子キャンプ　」

～ササビーと遊ぼう～

１．趣旨

「冒険と創造の森を活用した運動プログラムの開発委員会」で開発した、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム」を幼児の発達段階に応じ、親子で実施する。また、親子で野外炊事や、ハイキングを通じて、自然体験の楽しさに触れるとともに、親子の交流を深める。

２．事業の概要

（１）期日

秋キャンプ　令和２年１０月３日（土）～４日（日）
冬キャンプ　令和３年２月１３日（土）～１４日（日）

（２）参加者

①参加対象　幼児（年中、年長を含む）とその保護者　※兄弟がいる場合も可
②参加人数
秋キャンプ　３８名（１０家族）（応募総数４５名）
群馬県前橋市３家族、高崎市１家族、玉村町１家族、明和町１家族、埼玉県越谷市１家族、川越市１家族、東京都渋谷区１家族、神奈川県横浜市１家族
冬キャンプ　２３名（８家族）　（応募総数３７名）
群馬県前橋市２家族、高崎市３家族、昭和村１家族、東京都豊島区１家族、神奈川県川崎市１家族

３．企画運営のポイント

①自然体験遊びでは、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム」を取り入れてササビー広場で親子一緒に自然に触れ合う。
②野外炊事では、幼児でも調理に参加できるように、フルーチェや、簡単な工程で棒巻きパン作りを行う。
③「長七郎山登山」では、親子で一緒に自然を感じながら、途中のポイントでボランティア達とも触れ合う機会を設ける。
④冬の赤城山の自然を満喫する「雪遊び」と季節の行事である「チョコレート作りとすいとん作り」を実施することで、家族が楽しむ自然体験や文化体験の機会と場を提供する。
⑤「雪遊び」では、興味関心を持って進んで遊べるよう、スカイボード等、場の工夫を行う。
⑥「調理活動」では、幼児でも調理に参加できるように、チョコレートにデコレーションをしたり、すいとんの生地を混ぜたりするなどの簡単な工程で行う。

４．日程

秋キャンプ

	午　前	午　後	夜
１０月 ３日 （土）		開会式 自然体験遊び、ササビー広場で遊ぼう 野外炊事	「絵本の読み聞かせ体験会」 講師：前橋市読み聞かせグループ連絡協議会（田子智代、牧裕美子、馬場由佳里、高橋陽子）
１０月 ４日 （日）	長七郎山登山	閉会式	

冬キャンプ

	午　前	午　後	夜
２月 １３日 （土）		開会式 雪遊び	「絵本の読み聞かせ体験会」 講師：前橋市読み聞かせグループ連絡協議会（高橋陽子、馬場由佳里）
２月 １４日 （日）	調理活動 ①チョコレート作り ②すいとん作り	閉会式	

５．主な活動内容

秋キャンプ

「丸太わたり」

「さかのぼりチャレンジ」

「棒巻きパンづくり」

「棒巻きパンづくり」

「絵本読み聞かせ」

「長七郎山登山」

冬キャンプ

「雪遊び」

「雪遊び」

「雪遊び」

「絵本の読み聞かせ」

「チョコレート作り」

「すいとん作り」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

秋キャンプ　満足１０名（１００％）　やや満足０名　やや不満０名　不満０名

冬キャンプ　満足７家族（８８％）　やや満足０家族　やや不満１家族（１２％）
不満０家族

（２）参加者の声

秋キャンプ

・とても良い経験になった。去年と違う内容でよかったです。
・ボランティアの方にたくさん遊んでいただき、ありがとうございました。
・普段できない自然体験を家族みんなで行うことが、できて楽しかったです。
・読み聞かせが楽しかったです。
・長七郎山は登りやすかったです。お風呂が早く入れるとより良かったです。
・子供たち同士が仲良くなっていたので良かったです。
・野外炊事場で子供用の台があると嬉しいです。
・読み聞かせや、野外炊事で子供たちが自由にしているのを注意してほしいです。

冬キャンプ

・親子キャンプは、ただの「遊び」だけではなく、子供にとっての学びがたくさんつまっているので、また機会があれば、参加させていただきたいです。
・コロナ渦の中、人と人とのつながりを広げるのが難しいですが、プログラムに参加でき、子供たちの笑顔がたくさん見られて嬉しく思います。
・同年代の子供さんから刺激を受け、掃除などに取り組んだり、スタッフの方に褒めていただいたりしたことも励みになったようです。

（３）成果

秋キャンプ

①「自然体験、ササビー広場で遊ぼう」では、親子で楽しそうに遊ぶ姿や自然の中で様々な運動する姿が多く見られたことからプログラムの内容は良かったと考えられる。

②「野外炊事」では、多くの子供たちが棒巻きパンを作る作業を楽しんでいたことや、親子で協力しながら、夕ご飯をつくることができた。

③「長七郎山登山」は、距離や高低差から考えても、幼児にとって丁度良かった。また、ボランティアとも触れ合える機会があり、登山へのモチベーションにも繋がった。

冬キャンプ

①雪が豊富な「赤城山第三スキー場」で雪遊びを実施した。参加者の雪遊びの満足度が高かったことから、県内だけでなく、県外に住む家族にとっては、赤城の冬の自然を満喫する内容となった。

②「読み聞かせ体験会」では、あたたかい雰囲気の中、子供を惹きつけるお話しや手遊びなど、充実した内容で良かった。

③「調理活動」では、自分で簡単に作れる工夫がされていたので、幼児にとって丁度良かった。

（４）課題

秋キャンプ

①運営面で全家族が快適に過ごせるように、注意事項等を最初に徹底することや、ボランティアへの共有をしっかと行う必要がある。

②食事の際に使う幼児用のイスや食堂レーンの高さなど、幼児用の設備・準備の充実を図る。

冬キャンプ

①雪遊びプログラムの場合、滑ったり、転倒したりするので、スタッフの配置や場の設定を見直していきたい。

②幼児が参加する事業は、余裕をもった活動にするために、各プログラムの時間配分や全体の流れなどを見直していきたい。

担当　企画指導専門職付　反町　　峻
担当　企画指導専門職　　田村　文明

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業（民間企業等連携事業）

「育パパ＆育ママ応援ファミリーキャンプ in 国立赤城青少年交流の家２０２０」

１．趣旨

当機構は、体験活動を通した青少年の自立を目指し、幼児期からの体験活動や基本的な生活習慣の育成について推進するとともに体験の場と機会のさらなる充実について取り組んでいるところである。本事業は、その具体的な事業の一つとして、民間企業等との連携による教育事業等の質的・量的な拡充を図るため、民間企業との共催事業を実施し、民間企業と連携したモデルを構築する。

２．事業の概要

（１）期日

令和２年１１月７（土）～８日（日）

（２）参加者

①参加対象　幼児・小学生を含む家族・親子

②参加人数　４８名（１６家族）

保護者２４名　小学生１２名　幼児１２名

千葉県８家族、東京都４家族、埼玉県２家族、神奈川県２家族

３．企画運営のポイント

①「地蔵岳ハイキング」、「夜の森体験」、「たき火体験」などを通して、赤城山の大自然の中で、秋の自然を満喫する機会と場を提供する。

②家族内の交流を重視し、親子でゆっくりとした時間を過ごせるような活動プログラムやプログラム構成に配慮する。

③地元の近隣施設の連携強化も踏まえ、「さつまいも掘り体験」を実施し、赤城周辺の魅力を参加者に伝える。

④新型コロナウイルス感染症対策として、１家族１部屋の配室、就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図る。

４．日程

	午　前	午　後	夜
１１月 ７日 （土）	浅草駅発－（特急りょうもう号）赤城駅着	地蔵岳ハイキング ようこそセレモニー 夜の森探検 たき火体験	夜の森探検 たき火体験
１１月 ８日 （日）	秋の赤城の自然散策 お別れセレモニー さつまいも掘り体験	赤城駅－（特急りょうもう号） 浅草駅着	

５．主な活動内容

「車掌さんになって写真を撮ろう」

「地蔵岳ハイキング」

「地蔵岳ハイキング」

「たき火体験」

「朝のつどい」

「さつまいも掘り体験」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足　１３家族（８８％）、やや満足　１家族（６％）、やや不満　１家族（６％）

（２）参加者の声

・「超絶楽しかった！！」の一言につきます。プログラムも多すぎず、少なすぎず、ボランティアさんも職員さんもみんな優しくて、参加してよかったです。また是非来たいです。

・キャンプはやってみたかったけど、ハードルが高く迷っていました。今回、初心者には優しい内容で不便もなく、参加して良かったです。

・たき火体験では、癒やされてとても活力をもらいました。子ども達もずっと火を見ていました。

・コロナで中々地元に帰れない中久しぶりに大自然に触れて元気をもらいました。

・３才未満の子２人連れで参加したが、少し時間がタイトでした。

（３）成果

①キャンプに参加しようと思ったきっかけで一番多かったのは、「プログラムに魅力を感じたから」であることから、プログラムの企画は良かった。また、コロナ禍において、自然体験など家族で楽しむ時間が、これまでなかなか取れなかったとの声が多数寄せられた。そのような中、家族内の交流を重視し、「たき火体験」のような、親子でゆっくりとした時間を過ごす活動内容が好評であった。

（４）課題

①幼児以上を対象とし、その対象を想定したプログラム内容であったが、１・２歳児のみを連れた家族が２家族あり、「時間がタイトだった。」といった感想が寄せられた。広報の際、対象家族の記載を工夫し、参加者とプログラム内容とのミスマッチが起きないように、対象を厳守する必要がある

②コロナ禍において、遠方からの貸切電車利用での来訪である特殊な形態の事業であることから、体調不良者が出た際の対処方法を具体的に想定しておく必要がある。

担当 主幹兼事業推進係長　福岡　公平

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

赤城フェスタ２０２０

１．趣旨

「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的として実施する。群馬県内青少年教育施設及び青少年団体により組織された実行委員会が主体となり、赤城青少年交流の家を会場に開催し、小学生・幼児等の親子を対象に子供たちの「体験活動」を推進する。

２．事業の概要

（１）期日　令和２年１０月２４日（土）～１０月２５日（日）（１泊２日）

（２）参加者

①参加対象　幼児・小学生等を含む家族・親子

②参加人数　宿泊２２６名（６３家族）

日帰り１，００５名（２９５家族）

③宿泊者の内訳　６３家族

保護者１０３名、高校生１名、小学生９０名、幼児１８名、

３歳未満児１４名

群馬県６０家族、埼玉県２家族、新潟県１家族

３．企画運営のポイント

・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会主催事業として、赤城青少年交流の家が実施主体となりながら、実行委員会構成団体と連携して実施する事業として位置づける。

・家族、特に子供たちに、多様な遊び、体験の機会と場を提供するとともに、家族でゆっくりと楽しい時間を過ごす１泊２日の宿泊を伴う事業とする。

・跳び箱世界記録保持者、モンスターボックス２３段クリアの池谷直樹さんを招聘し、体操パフォーマスや体操教室を実施する。

・法人ボランティアが、これまで培った知識・技能・経験を活かして、参加者が楽しめるように自主企画し運営するブースを設け、より実践的な力を養う機会とする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
１０月 ２４日 （土）		開会式 夕食	池谷直樹さんの体操パフォーマンス 入浴 就寝
１０月 ２５日 （日）	朝のつどい 朝食 オープニング 体験活動（午前の部） 体操教室（午前の部）	ステージタイム（昼食） 体験活動（午後の部） 体操教室（午後の部） クロージング（ビンゴ大会）	

５．主な活動内容

「体操パフォーマンス」

「オープニング」

「体操教室」

「ステージタイム」

「連携機関運営ブース」

「クロージング」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果（宿泊・日帰り）

満足 43 家族（75.4%）　やや満足 14 家族（24.6%）　やや不満０家族　不満０家族

（２）参加者の声

・作ったマイスプーンフォークで、お昼のカレーや焼きそばを食べました。最高でした。
・プロの演技が間近で見られて良かったです。とにかくパフォーマンスがどれも素晴らしく、ドキドキ、ワクワク、興奮しました。
・子供が自分で作ることの楽しさを知れたので、良かったです。
・ＷＲはみんなで考えながら歩く等、ポイントでも楽しかったです。
・風が強い中、コロナ対策の中、いろいろな体験ができて良かったです。
・コロナでずっと自粛していたので、今年一番の良い思い出ができました。

（３）成果

①赤城青少年交流の家が実施主体となりながら、実行委員会構成団体である群馬県青少年会館、群馬県立妙義少年自然の家、群馬県立東毛少年自然の家、日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、赤城自然園、まえばし CITY エフエムの７機関がブース出展に協力したり、食堂が屋台ブースを出店したりするなど、様々な機関で連携して取り組むことができた。
②池谷直樹さんのパフォーマンスや体操教室（２回：４８名参加）に興味があり参加した家族が多かったことから、応援団の招聘が集客に大きな効果があった。
③コロナ渦の中による実施であったが、日帰り参加者数などから、イベント事に興味を持っている家族が多いことがわかった。

（４）課題

①宿泊者の食事や入浴時間、日帰りの受付方法などを参加者の人数に応じて動きを変更する必要がある。
②今年度も、突風により各ブースに設置した簡易テントの多くが破損した。安全面から、より強固なテントの購入や重しの工夫、使用しないこと等を検討する。

担当　企画指導専門職　田村　文明

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動推進委員会出展ブース等」

１．趣旨

群馬県における子供たちの体験活動を推進するとともに、「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的として、群馬県教育委員会及び学校教育関係者並びに青少年団体による実行委員会を組織し、実行委員の団体及び関係する団体と連携しながらブース出展し、体験活動の場を提供する。

２．事業の概要（期日と参加者）

	参加事業名	期日	参加人数	会場
1	子どもゆめ基金説明会	9 月 24 日	18	前橋市中央図書館
2	まえばし初市まつり	1 月 9 日	112	前橋プラザ元気 21
	合　　計		130	

３．企画運営のポイント

・イベントのブース出展にあたっては、消毒や飛沫飛散防止シート、ビニル手袋などを用意し新型コロナウイルスの対策を行い、体験活動を提供する。

４．事業の様子

「子どもゆめ基金説明会」

「まえばし初市まつり」

「まえばし初市まつり」

５．成果と課題

（１）成果

・コロナ禍で、体験不足や体験活動の必要性を感じている青少年団体や保護者に対し、体験活動の意義や魅力を発信することができた。

（２）課題

・コロナ禍により、ブース出展が１度しか実施できなかった。新型コロナウイルスの対策をしっかり行いながら、引き続き、県内の多くの子供たちに広く体験活動の機会と場を提供していきたい。

担当　主幹兼事業推進係長　福岡　公平

令和２年度　国立赤城青少年交流の家職員

所　　長	松村　純子
次　　長	鈴木　昭博
主任企画指導専門職	塩原　基寧
企画指導専門職	横山　直樹
企画指導専門職	田村　文明
企画指導専門職	渡邉　秀幸
企画指導専門職付	反町　峻
主幹兼事業推進係長	福岡　公平
事業推進係	山川　晃
事業推進係	成清　裕史
事業推進係	阿佐美　幸子
事業推進係	吉田　賢
事業推進係	髙田　真美
総務係長	吉田　真祐
総務係	鈴木　和子
管理係長	齊藤　勇一
管理係	朝日　麻理奈
管理係	佐藤　順彦
管理係	寺田　里美
学生サポーター	細田　希星

令和２年度　国立赤城青少年交流の家事業報告書
令和３年２月
編集・発行　独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 27
TEL 027-289-7224　FAX 027-289-7226
URL https://akagi.niye.go.jp/
E-mail　akagi-kikaku@niye.go.jp